

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和4年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	東北大学	整 理 番 号	1802
プログラム名 称	未来型医療創造卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	山口 昌弘	プログラムコーディネーター	中山 啓子
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムはD(データ)T(技術)S(社会)の融合研究により課題解決を図る未来型医療人材を育成することを目的としたもので、カリキュラムの改善、優秀な学生の獲得など着実に進められている。 ・中間評価以降、多様な学生の確保に力を入れ、ホームページやSNSを用いた周知、入学時期の多様化等により入学者の多様性を確保する取組をしている。 ・昨年度初めて学位審査を実施し、論理性、展開力、社会的視点、コミュニケーション能力を、学生とは研究分野が異なるプログラム担当教員2名が審査した。 ・KPIにおける論文発表数などは目標値を超えている。一方で、企業や海外との共同研究、学外資金の獲得などの面で今後の取組が期待される。 <p style="text-align: center;">【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年4月に高等大学院機構が設置され、全学的な大学院改革が推進されており、分野横断型学位プログラムも複数実施されている。その中で本プログラムは、4研究拠点の1つである「未来型医療」の大学院教育プログラムとして位置づけられており、大学院改革に貢献することが期待されている。 <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学的な大学院改革の中でこのプログラムがどのように体系づけられ連携発展していくのか、その道筋を示していただきたい。 ・このプログラムの特徴の一つであるファシリテーター教員の養成に関して全学的に価値を認めるのであれば、経済的な支援、教員評価の在り方の検討をも含めて、横展開できるような仕組みを検討することが重要と思われる。 ・横断型学位プログラムに対し指導教員が十分に理解していない現状が未だあるように思われることから、全学的な周知活動も重要と思われる。 ・学生の選抜に関しては倍率1.7倍であり、ホームページやSNSを用いた周知、入学時期の多様化等の効果が出てきたものと評価できる。一方で、多様性の観点からは、留学生、社会人は少なく、また、文系・情報系の学生も多くないことから、獲得に引き続き努めていただきたい。 ・プログラムに対する学生からの評価は総じて高い。特に早期から企業と関わりアカデミア以外の広い視野が得られること、異分野の学生・教員と交流できることが高評価につながっているものと考えられる。一方で、企業との共同研究など今後の資金獲得にもつながる取組を挙げる学生がいなかったこと、海外研修が新型コロナウイルス拡大の影響から進められていないことから、国内外の企業や研究機関との研究の機会を増やすことも必要と思われる。 ・人との交流を求めてこのプログラムを選択した学生にとって、新型コロナウイルス拡大の影響により、講義が主にオンラインになったことは残念であったようだが、Slackの活用等により学生同士が縦、横の交流が強いと感じていることは評価できる。今後 			

対面講義が増えてくると、4つのキャンパスに分かれていることから移動に時間がかかることも考慮し、バランスをとるよう努めていただきたい。

- 学位審査は、昨年度初めて1名に対して行われた。今後、複数名が同時に審査を受けられるようになることから、審査レベルを標準化し、このプログラムで身についた論理性、展開力、社会的視点、コミュニケーション能力を適切かつ公正に審査できるようなシステム構築が求められる。
- 本プログラムが契機となって誘致する共創研究所の学内での在り方については早急に検討していただきたい。
- 補助期間終了後の本プログラム自走のため、学内資源の活用、共同研究の拡大等を検討いただきたい。また、状況によってはプログラムのどの部分をどのような形で残すのか、関係者間での検討を開始することが必要と思われる。